

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 学校法人 南星学園 サイ・テク・カレッジ那覇

1. 事業名称 沖縄県在住外国人のための日本語教育推進事業

2. 事業の目的

現在、沖縄県には約5万人の米軍関係者やビジネス目的の外国人が居住している。沖縄県が実施した「沖縄県在住外国人アンケート調査(沖縄県実施 2007※)」によると、日常生活での悩みについて、言葉が通じないという答えが一番多く、子育て、医療、就職に関することが上位を占めている。そのため本事業では、沖縄に在住する外国人の視点に立って、日常生活の中で特に災害時・医療受診時に対応する日本語学習を主目的に事業を実施した。

併せて、地域住民との国際交流を促進し、異人種・異文化間の相互理解を深める活動の支えとなる日本語習得も目的とした。

※参考 URL

<http://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/koryu/honka/documents/section3.pdf#search='%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C+%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA+%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88'>

3. 事業内容の概要

沖縄県に在住する外国人生活者の日本語学習を支援し、外国人と地域住民が共に安心できる住みよい地域づくりを目指すため、次の3つの取り込みを実施する。

①日本語講座の実施、②日本語教育を行う人材の養成、③日本語学習教材の作成。

特に日本語教育を行う人材の養成については、指導ボランティアを育成する。ボランティア間のネットワークを整備し、持続可能な学習支援体制を目指す。

4. 運営委員会の開催について

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年8月10日 16:00～17:30	1時間30分	サイ・テク・カレッジ那覇	遠山 英一 仲 尾次 嗣明 宮里 孝夫 當山 善堂 高柳 清明 伊佐 善松 玉城 あゆみ 西平 明彦 宮里 新子 小 波本 あゆみ	①運営委員会規約について ②事業計画・業務計画の概要について ③実施計画(カリキュラム)について	・運営委員の紹介と委嘱 ・運営委員会規約の説明と承認 ・事業&業務計画についての説明をし、この事業の目的は何かを確認。 ・実施計画(カリキュラム)の説明をし、講座の内容についても確認した。
2	平成24年11月26日 16:00～17:30	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	遠山 英一 仲 尾次 嗣明 宮里 孝夫 當山 善堂 高柳 清明 伊佐 善松 玉城 あゆみ 西平 明彦 小波本 あゆみ	①台風による講座日程変更について ②講座の進捗状況について ③学習教材作成の進捗状況について ④学習教材作成の原稿執筆者の変更について ⑤「日本語ボランティア育成講座」の講師の変更について	・台風による休講及び日程変更についての報告 ・現在までの「日本語講座」「日本語ボランティア育成講座」の進捗状況についての説明 ・学習教材作成の執筆者と進捗状況の説明。 ・学習教材作成の執筆者とボランティア育成講座の講師が諸事情により変更になったことの承認。
3	平成25年1月29日 16:00～17:30	1時間	サイ・テク・カレッジ那覇	遠山 英一 仲 尾次 嗣明 宮里 孝夫 當山 善堂 高柳 清明 伊佐 善松 玉城 あゆみ 西平 明彦 宮里 新子 小 波本 あゆみ	①実施報告書について ②アンケートのまとめについて ③文化庁委託事業の報告書提出について ④報告書の内容について	・11月10日に終了した「日本語ボランティア育成講座」と12月8日に終了した「日本語講座」の報告。 ・両講座の最終日に行った授業に関するアンケート集計を報告。 ・文化庁委託事業の報告書提出と内容については、事務局が責任をもって作成・提出をするので一任してほしいと提案があり、全会一致で承認された。



【写真】 第一回、第二回の運営委員会の様子

5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 講座名称 「医療&災害に関する日本語」
- (2) 目的・目標
 日本の中でも特有の文化・生活習慣を持つ沖縄社会の中で、外国人が日常遭遇するであろう事柄を中心とした日本語講座を実施し、安心して暮らせるサポートを行う。特に病気や怪我等で受診する際の日本語会話、沖縄ならではの台風時や地震の際のTV報道の見方など、身近な例を手本に医療・災害等に関する日本語を学び、コミュニケーション能力を高めることを目的に講座を実施した。
- (3) 対象者 「沖縄県内に在住する外国人」
- (4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 10 回)
- (5) 使用した教材・リソース
 ・みんなの日本語 I・II
 ・沖縄の方言- 調べてみよう暮らしの言葉
 ・日本語おしゃべりの種
 ・あいうえお表
 ・文化庁の外国人に対する標準的なカリキュラム案(参考)
 ・その他、各講師作成教材
- (6) 受講者の総数 16 人
 (出身・国籍別内訳： 米国 13人, 韓国 2人, フィリピン国 1人)
- (7) 受講者の募集方法
 ① 募集チラシ・ポスターを作成し、近隣市町村の外国人登録窓口や国際交流団体等へ配布
 ② 当校ホームページに募集案内を掲示し、申し込みもできるように設定した。
 ③ 英字新聞へ広告掲載(有料)
 ※①～③とも本報告書の添付資料参照のこと
- (8) 日本語教室の具体的内容

回数	日時	取組内容
1	平成 24 年 9 月 8 日 9:00～12:00	プリント教材によるひらがなの練習 基本的な挨拶の練習 自分の名前と簡単な自己紹介の練習
2	平成 24 年 10 月 6 日 9:00～12:00	プリント教材によるひらがなの練習 いろいろな職業に関する語彙や会話について いろいろな疑問文を作ってみる

3	平成 24 年 10 月 13 日 9:00~12:00	プリント教材によるひらがなの練習 こそあど言葉の使い方 いろいろな疑問文を作ってみる
4	平成 24 年 10 月 20 日 9:00~12:00	プリント教材によるひらがなの練習 外食時の基本的な会話やメニューの日本語
5	平成 24 年 10 月 27 日 9:00~12:00	プリント教材によるひらがなの練習 スーパー等での基本的な会話や日用品に関する日本語
6	平成 24 年 11 月 10 日 9:00~12:00	プリント教材によるひらがなの練習 いろいろな動詞を使って文を作ってみる
7	平成 24 年 11 月 17 日 9:00~12:00	体の部位や基本的な病名、症状に関する語彙を学ぶ。
8	平成 24 年 11 月 24 日 9:00~12:00	病院において診察時の基本的な会話を学び、練習する。
9	平成 24 年 12 月 1 日 9:00~12:00	沖縄特有の自然環境や気候風土について説明し、台風や自然災害に関する理解を深める。
10	平成 24 年 12 月 8 日 9:00~12:00	沖縄で頻発する台風時の警報や注意報、地震や津波の時の TV 報道に関する日本語を学ぶ。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

- ① 11月17日と11月24日は「医療に関する日本語」というトピックで、身体や病気に関する言葉や会話表現について授業をした。頭や目などの体の部位の日本語から始め、各種の病気や症状を日本語で何というかを教えた。また、2日目には、病院で診察を受ける際の受付から医者への症状の説明までを分かりやすい言葉で教えた。
- ② 12月1日は「沖縄の自然」というトピックで、沖縄の気候・風土についての授業を行った。日本の他府県とは大きく違う沖縄の気候について、植物や動物の生態なども加えて説明し、さらに季節に沿った伝統行事についても説明した。受講者からは「沖縄の文化についての理解が深まった」等の感想が聞かれた。
- ③ 12月8日は「台風・地震時の日本語」というトピックで、沖縄で頻発する台風やいざ地震という非常事態の時にに関する日本語を学んだ。特に台風に関しては、バスやモノレールの運行停止、小中高校が休校になる「暴風警報」が発令された時の TV 画面のスクリーンショットをプリントで見せることによって、漢字の意味が分からなくても理解できるようにした。毎年、何度も台風に見舞われる沖縄にとっては必須のトピックなので、受講者も興味深く質問していた。また、震災時の TV 画面についても説明することによって、警報等への理解を促した。



【写真】「沖縄の気候」の授業風景



最終日に（掲載許可有の方々）

(10) 目標の達成状況・成果

今回の日本語講座は、全30時間と短い期間であったが、より厳選されたトピックと内容の講座となった。受講生はほとんどが日本語講座を受けるのは初めてという初心者だったため、講師には受講生のレベルにあわせて授業内容を調整してもらった。

また、今回は会話のトピックとして医療と災害時の会話を設定したが、2年前の震災のこともあり、防災意識の高まりを受け、受講者の興味・関心を引き、募集・学習効果へと繋がった。

(11) 改善点について

- ① 全10回という講座回数について、講座に関するアンケートにも「もっと講座を受けたい」という要望があったように、もっと長期間の講座を検討する必要がある。
- ② 受講者の日本語能力のレベルに差がある場合、初級クラスと中級クラスに分けて講座を行う必要がある。今回はたまたま全体のレベルが同じような初心者だったためよかったが、受講者に合わせてフレキシブルにクラス編成が行えるような企画を考えたい。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 「日本語ボランティア育成講座」

(2) 目的・目標

日本語学習機会の増加と地域住民との交流を促進するため、日本語ボランティアを育成する。また、ボランティア間のネットワークを構築し、継続した支援体制を整備する。

(3) 対象者 「日本語教育・ボランティア活動に関心のある人」

(4) 開催時間数(回数) 15 時間 (全 5 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・講師作成教材
- ・実際に行われた日本語教室の録画 DVD
- ・日本語バイリンガルへのパスポート(沖縄国際大学日本語教育教材開発研究会編)

(6) 受講者の総数 9 人 (出身・国籍別内訳 日本国 9人)

(7) 受講者の募集方法

- ① 募集チラシ・ポスターを作成し、近隣市町村の国際交流団体等へ配布
- ② 当校ホームページに募集案内を掲示し、申し込みもできるように設定した。
- ③ 英字新聞へ広告掲載(有料)

【問い合わせ】 AM9:00～PM5:30

TEL 098-865-2800

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	日時	取組内容
1	平成24年10月6日 9:00～12:00	<ul style="list-style-type: none">・外国人と日本語で話をするコツがあるんです・どうして日本で外国人が生活しているのか考えてみよう。・日本語が分からない感覚を体験してみよう。・「やさしい日本語」を話してみよう。

2	平成 24 年 10 月 13 日 9:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな外国人が日本語を習っているのか？ ・どうやって日本語の練習をしているのだろうか？ ・普段使っている日本語は正しい日本語か考えてみよう
3	平成 24 年 10 月 20 日 9:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・普段使っている日本語は正しい？ ・外国人と日本語で話してみよう（日本語講座の受講生と合同授業）
4	平成 24 年 10 月 27 日 9:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞のグループ分けの方法を発見しよう ・どうして動詞に種類があるのか考えよう
5	平成 24 年 11 月 10 日 9:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞について考えてみよう ・表記のとおり発音しているのでしょうか？ ・まとめ

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

- ① 10月13日の講座では、講師が撮影した沖縄市で実際に行われた日本語教室のDVDを鑑賞し、授業の内容や受講者の様子について疑似体験をすることができた。DVDの中での受講者の質問の内容や講師との会話を聞くことによって、どのような指導や手伝いをすればよいか、具体的に想定することができた。
- ② 10月20日の講座では、沖縄国際大学日本語教育教材開発研究会が編集した「日本語バイリンガルへのパスポート」を教材に、日頃、沖縄の人が話している「日本語(ウチナーヤマトウグチ)」は実は共通語の「日本語」とは違う点がかかなりあることを学んだ。自分たちは沖縄の方言ではなく、日本の標準語を使っているつもりだが、実際はその多くが沖縄独特の言い回しであったり、ボキャブラリーであった。受講後のアンケートでもほとんどの受講者が初めて気付いたとの感想を述べていた。
- 細かい違いではあるが、日本語指導の際には間違えて教えてしまうことになるので、注意を払う必要がある。



【写真】 授業風景

(10) 目標の達成状況・成果

今回初めて「日本語ボランティア」の育成を目的とした講座を開設したが、最近の「日本語ボランティア」の需要の高さと比例するかのよう、受講者の数や意識の高さが顕著に表れていた。受講生はそれぞれ、過去に日本語講師の講座を受けていたり、ボランティア活動経験者であったりと、何らかの形で「日本語ボランティア」に関するバックグラウンドを持っていた方が多かった。「これまでやってきた活動をもっと専門的に行いたい」とか、「初心者だが、将来的に日本語講師を目指したい」という要望を持っており、この講座を受講したことによって、これからの活動の道筋や目標が見えてきたという声が多く聞かれた。

(11) 改善点について

今回は全5回(15時間)という短い講座期間であったため、「もっと時間数があつて欲しかった」、「継続して講座を開設して欲しい」との声があった。それらの意見も踏まえ、今後、さらに需要が高まっていくであろう「日本語ボランティア」の育成機関としての役割を続けていく必要がある。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称:「外国人が役立つやさしい日本語教材おきなわ編」
- (2) 対象:あいさつ程度の日本語ができるレベルで、読み書きは困難な人
- (3) 目的:目標:日本の中でも特有の文化・生活習慣をもつ沖縄社会の中で、安心して暮らせるために必要な日本語教材として活用できるものとする。病気になった時や防災について、より外国人の理解しやすいものへと工夫する。コーディネーターを中心に行政・自治会との連絡調整等を行い時宜に適した教材の作成を行う。例えば、各市町村役場の外国人関係の窓口において、在沖縄外国人の現状についてや彼らが必要としている情報は何かを尋ねる。
- (4) 構成:①ひらがな練習②日本語の基礎③災害時での日本語
④沖縄の気候風土⑤病気になった時の日本語
- (5) 使い方:ひらがななどの日本語の基礎学習から始めることができ、防災や病気になった時など具体的な事例に基づいて作成している。ひらがなの練習など学習者の日本語レベルに合わせた個所から使用できるため、幅広い対象者へ使用できる。
- (6) 具体的な活用例:一冊の教材の中に、日本語の基礎から応用編を組み入れることによって、学習意欲の継続性を高める活用方法が見込める。ひらがなの練習を行いながら、覚えたひらがなが実際に会話の中でどのように使われているのか学ぶことが出来る。講座の時間中に、日本語の基礎と応用を織り交ぜることによる学習効果の向上を図る。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

沖縄県に在住する外国人は、約5万人の米軍関係者やビジネス目的のインド人、中国人、韓国人、フィリピン人等が居住している。沖縄県が実施した「沖縄県在住外国人アンケート調査(2007)」によると、日常生活での悩みについて言葉が通じないことが一番多く、子育て、医療、就職に関することが上位を占めている。

そのため本事業では、沖縄に在住する

- ①外国人の視点に立って、日常生活の中で特に必要となる事柄について日本語をはじめ、文化・生活習慣について学習する場を設ける。また、
- ②地域住民との国際交流の場を提供し、異人種・異文化間の相互理解を深める活動を行い、
- ③外国人が住みよいと感じられる支援体制を整備する。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

① 基礎的なひらがなと会話の学習だけでなく、「医療に関する日本語」と「災害時の日本語」の特徴的なトピックを掲げた授業を行い、台風・地震等の発生時の防災対策・避難の際の街頭アナウンスやTV放送についての知識や理解を深め、また、病気・けが等で県内の医療機関で受診する際の日本語でのコミュニケーション能力を高めることができた。

② 「日本語ボランティア講座」の受講生と合同授業を行い、少人数のグループで自由に会話を行ってもらった。短い時間ではあったが、例えば、シーサー(沖縄の各家の屋根にある獅子の置物)の意味や美味しい沖縄そばの店についてや、アメリカの人気TVシリーズについて等、お互いに興味があるトピックについて話が盛り上がっていた。また中には講座以外でも交流を続けられるよう、メールアドレスを交換する受講生方もおり、小さな国際交流の芽を見ることができた。

③ 上記の学習体験を通して、今まで一般的な日常会話講座では教わる機会が少なかったトピックについての日本語の知識が増えたことにより、外国人受講生の方々の日常生活における不便さや不安を少しでも軽減することができたのではないかと。そして、講座後も外国人受講生と日本語ボランティア受講生の個人レベルでの交流が続くことによって、本事業の大きな目的である、相互理解を深め、外国人の方が住みよいと感じられる環境の基礎作りができたのではないかと。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案内の「やり取り例」「機能」「文法」「語彙」は、非常にわかりやすい実例があり、講座の方向性を決定するうえで、大変参考となった。地域内の日本語ボランティアへの指導教材としても利用でき、各地域で生活する外国人の実用に応じた内容を重点的に教授することが出来るものと考えられる。カリキュラム案をもとに沖縄の地域性に合致した内容に工夫し、地域住民とのコミュニケーションづくりに役立てていく。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

日本語教室の開催及び日本語ボランティアの育成講座の開催を通じて、地域に住む外国人への関心が高められたと考える。特に、受講生募集において、各市町村、大学などを訪問し、外国人の行政への相談内容や留学生の生活状況など、(例えば、簡単な日常会話ができずに買い物や外食時に不自由さを感じるとか、病院で病状をうまく説明することができないので病気や妊娠した時に苦労したなど)、生活者としての外国人が抱える問題を的確に把握することができ、そこから本当に必要な日本語とは何か、困っている日本語とは何か、外国人の視点からのテーマを持った講座を開講することが出来た。今後とも、市町村単位で行っている日本語教室との情報交換や日本語ボランティアの派遣など地域コミュニティとの関係性を深めて、より外国人が安心して暮らせるサポートづくりの一役を担っていくことを念頭に日本語教育活動に取り組んでいく。

(5) 改善点、今後の課題について

今回の日本語教室及び日本語教材の受講生対象を「あいさつ程度の日本語ができるレベルで、読み書きは困難な人」としたが、実際には日本語での挨拶も覚束ない外国人が比較的多く参加していた。日本語教育のレベルを当初想定したものよりかなり基本的なものへと修正した。今後の大きな課題として、日本語の基礎を重点的に教授しながら、実践的な内容を取り入れて、外国人の日本語習得状況を適時把握しながら、きめ細やかな対応を実施しなければならない。また、日本語ボランティアの研修では、20代の参加者が少なく、50代～60代の参加者が多かった。この点を踏まえ、幅広い年代に参加してもらえよう周知活動を工夫していきたい。

(6) その他参考資料

- ① 第一回～第三回 運営委員会 議事録
- ② 運営委員会規約
- ③ 「医療&災害時の日本語講座」受講者アンケート集計
- ④ 「日本語ボランティア育成講座」受講者アンケート集計
- ⑤ 「医療&災害時の日本語講座」カリキュラム
- ⑥ 「日本語ボランティア育成講座」カリキュラム

⑦ 「日本語講座ルール」「台風時の注意事項」(受講生への配布資料)